

あいらの歴史と物語

発行責任者 始良歴史ボランティア協会
会長：竹之下 洲一
編集者 広報部：松下 澄行

連絡先：〒899-5421 鹿児島県始良市東餅田 498

始良市歴史民俗資料館 0995(65)1553

義弘の帖佐史跡を訪ねて



義弘の帖佐史跡

永富 巖

平成26年11月8日、始良市歴史民俗資料館主催の「島津義弘の帖佐史跡めぐり」があり、帖佐の義弘居館跡を中心としたエリアを巡るコースでした。

義弘は、秀吉から薩摩・大隅・日向諸県57万石をあてがわれ、文禄4年(1595)、朝鮮より帰国すると、栗野から帖佐に移りました。その後ここで11年間過ごしました。帖佐の居館は、新納旅庵が監督し、阿多長寿院盛淳などの加勢でつくられました。今も当時の石垣が残っています。

慶長2年(1597)、義弘は再び朝鮮へ出兵し、翌年の泗川の戦いで大勝利を得ますが、秀吉の死を機に日本軍は撤兵します。帰国後、義弘は高野山に朝鮮の役での敵味方供養碑を建て、願成寺には従軍者らと彫った仏像(千体仏)を安置し、戦没者を供養しています。また居館跡には、泗川の戦いで窮地に陥った島津軍を救ったといわれている

狐を祀った稲荷神社があります。

慶長5年(1600)の関ヶ原の合戦では、西軍方につきますが1日で勝敗が決し、東軍の勝利が確定します。義弘は決死の敵中突破を敢行し、窮地を脱し帰国しますが、甥の島津豊久や阿多長寿院盛淳ら数多くの犠牲者を出しています。隠居後は看経所で冥福を祈ったことでしょう。

帰国後は一時桜島にて謹慎。慶長6年(1601)秋ごろ帖佐に帰り、神之川から朝鮮人陶工金海を呼び寄せて、館内に宇都窯を築かせ、自分好みの茶器を焼かしています。この窯は現存する薩摩焼最古の窯といわれています。

慶長7年(1602)、徳川家康より島津氏の領国安堵、忠恒への相続が許され、義弘の身分も保証されます。義弘が帖佐に在住した時期は、島津家が関ヶ原合戦後の窮地を乗り越え、薩摩藩の礎を築いた時期ともいえるでしょう。

義弘関連史跡

帖佐八幡神社

橘木 雅晴



弘安5年(1282)、京都石清水善法寺の法印平山了清は、石清水八幡の心霊を奉じ、部族870余名を率いて帖佐松原浦に下着。さらに別府川をさかのぼって船津に着き、東方のこの地を八幡鎮座の地と定めて祠を建立し、国分の正八幡宮(現鹿児島神宮)に対抗して帖佐新正八幡と称しました。

島津義弘は帖佐館に居たころ(1595~1606)、この神社を崇敬し什宝や幡・三十六歌仙額(市指定文化財)を寄進し、祭礼行事の浜下りを再興しました。現在も秋の正祭には、松原御門神社への神輿浜下り神事が行われています。また境内には平山了清ゆかりの木で、樹齢700年と伝えられている大銀杏(市指定天然記念物)があります。

花園寺跡

迫村 あけみ

花園寺は、正式には「日陽山花園寺宝寿院」と



いい、鍋倉の稲荷神社の西側にありました。現在は、稲荷神社とは道路によって区切られていますが、残された石垣の並びから、同じ居館内にあったと思われます。元は義弘の看経所かんきんじよがあった所で、薩摩藩初代藩主家久の三男で、修験者長賢坊ちようけんぼうとなった市正忠廣いちのかみのために、寛永14年(1637)建立された寺院でした。忠廣が20歳で還俗げんぞくし鹿児島に移ったあと、花園寺は修験者米良存良坊に与えられました。以後代々米良家によって藩主家の武運長久と息災が祈願されてきましたが、明治2年(1869)の廃仏毀釈で廃寺となりました。現在、庭園跡と思われる石組みが一部残っており、その形状や配置に、桃山時代の流行が見て取れます。

高尾城跡(元稲荷)

宮内 伸一



高尾城は平山城の支城で、戦国時代の明応4年(1495)、ここで辺川忠直と加治木領主加

治木久平との間で戦があり、辺川忠直は戦功により帖佐地頭となりました。大永6年(1526)には薩州家島津実久方に味方して裏切った辺川忠直は、島津忠良(義弘の祖父)に攻められ、ここで戦死しています。

慶長3年(1598)、高尾城跡の山頂に稲荷神社が勧請されました。これは島津義弘が二度目の朝鮮出兵時、朝鮮四川における戦いで窮地の島津軍を勝利に導いた狐を祭ったものです。稲荷神社はその後崖崩れの心配から、文政10年(1827)に帖佐御屋地跡に移されました。高尾城跡の山頂には石灯籠等が残っています。地域の人々は、今でも高尾城跡を「元稲荷」と呼んでいます。

蒲生巡検 2

久目神社

佐土原 保子



文政11年(1828)『蒲生中神社しらべ帳』に、「地頭飯屋より亥の方14丁余、久馬神社・御鏡…」とあり、年代不詳の『蒲生御飯屋文書』に「久馬神社・久目門…」などとあることから、神社名は本来久馬神社で、久目門の人々が祭祀を奉納していたと思われま

す。ところが現在ではこの神社は、久目家の個人所有になっており、神社名は久目神社で、六月堂やお祭りも久目家で行われています。このような個人所有の神社は珍しいといわれています。

境内には、二体の丸彫りの石立像があります。一体は毘沙門天像で鎧兜をつけ、右手に宝棒・左手に宝刀を持っています。もう一体は不動明王像で頭部は弁髪で左肩に垂れ、右手に剣・左手に絹索を持ち、鎧は着けていません。二体とも相当古い石立像です

森木田神社

松下 澄行

この神社にはこの一帯にあった4社(笛嶽神



社・若宮神社・高見堂・小国神社)を合祀したとあります。合祀されたのは、明治42年(1909)5月29日のことです。

また、この神社の左奥には当時合祀された時に、一緒に持ってこられたであろうと思われる石碑・石像群(六角笠塔婆・月輪塔・不動王・立像石仏など)が鎮座しています。

以前は少し離れた北側奥の地区公民館と同じ敷地にあったといひます。その後いつの頃かわかりませんが現在の地に移されたとのこと。またこの付近に、以前は森木田小学校があったと伝えられています。

祭神は産土神。創始と沿革は不詳です。

左 籬

吉田 茂子

前郷川に沿って県道211号線を登ると、面貫のバス停があり、その近くに左籬と呼ばれる場所があります。

天文24年(1555)の岩戸川原の戦いで、島津貴久は北村勢により手痛い攻撃を受けましたが、弟子丸播磨守などの死守により、難を遁



れました。岩井川原から白男の滝の上、左籬を通り薄原・面の坂(面貫)・良久の原・郡山を経て吉田城に至りました。白男の滝の上は断崖絶壁の岩山がむきだして、岩山伝いに通るとき、籬(矢を入れて背に負う武具)が岩にあたるので、左肩に背負いなおして渡り、ようやく面貫にたどり着いたといわれています。

歴史民俗資料館展示品紹介

『明治十年役山田郷出陣人名』掛軸



恒見 勝則

明治6年(1873)、西郷隆盛は朝鮮との国交に関して出した「遣韓論」が政府内で受入れられず、鹿児島へ帰り私学校を創設しました。その後、各地で不平士族の反乱が続き、ついに明治10年(1877)に西南

戦争が起こりました。

山田、帖佐2郷の従軍者は、加治木区長であった別府晋介率いる独立2番大隊に、重富の従軍者は鹿児島隊に編成されました。

旧始良町からの従軍者は、帖佐415人、山田232人、重富166人、総計813人、うち187人が戦死し、約23.0%という高い死亡率でした。

中でも、山田の第7連隊3番小隊96名は、西南戦争の最激戦地で戦い、34名(約35.4%)が戦死しています。西南戦争後、始良市内には西南戦争記念碑や供養塔が建てられました。

「活動実績」

- ① 9月4日 始良市・湧水町厚生保護助成会
蒲生八幡周辺・山田凱旋門ガイド(企画部)
- ② 10月16日 加治木公民館講座「帖佐地区」
- ③ 11月8日 始良市歴史民俗資料館企画
「島津義弘関連帖佐地区」(会員全員参加)
- ④ 11月20日 加治木公民館講座「重富・山田」
- ⑤ 12月11日 蒲生巡見Ⅰ「蒲生南東部」(広報部)
- ⑥ 1月15日 加治木公民館講座「蒲生下場地区」
- ⑦ 1月16日 蒲生巡見Ⅱ「蒲生西部」(企画部)
- ⑧ 2月12日 蒲生巡見Ⅲ「蒲生漆地区」(研修部)
- ⑨ 2月19日 加治木公民館講座「蒲生上場地区」
- ⑩ 2月26～27日 鹿児島大学教育学部現地研修
- ⑪ 3月4日 えびの市史談会加治木義弘関連視察

始郷(あいきょう)

始郷=愛郷

恒吉 一洋

「始郷」とは換言すれば「愛郷」でもある。始良市は鹿児島市に近いし、空港にも近い。

高速道路・鉄道・そして良港に恵まれている。桜島の灰も滅多に降らない、降っても、雨がすぐ洗い流してくれる(高い確率で雨が降る)。生活するにはとても便利である。

また、始良市は名所旧跡の多い歴史の町である。

蒲生・始良・加治木の三町が合併して、その数も倍増した。島津義弘関係の史跡や遺物、郷土芸能だけでも相当なものだ、ガイドの場所にも事欠かない。

見学者も年々増えているという、ありがたい。

始良は本当によい町である。

『歴史用語解説』

竹之下 洲一したた

『三十六歌仙額』「三十六歌仙絵」を扁額したたに認めたもので、室町時代以降、神社などに奉納することが流行した。

島津義弘は帖佐在住の間、朝鮮出兵や関ヶ原合戦後の帰国に際し、御願成就の御礼として「三十六歌仙額」を帖佐八幡神社に奉納したと推測される。元は神社の拝殿に掲げられていたと思われるが、損傷が激しいため始良市歴史民俗資料館に保管されている。

県内には他に、出水城主島津義虎が天正5年(1577)、出水の愛宕神社に奉納したもの、出水郷士の伊集院久明が元禄7年(1693)、出水の山崎神社へ奉納したものがある。いずれも現在出水市歴史民俗資料館に保管されている。

編集後記

今年度は、近隣市町の研修で、始良市と関連のある市町と、蒲生地区の今まで知らなかった史跡などの研修をいたしました。

平成27年度は、「国民文化祭」が鹿児島県であります。私共も関心をもち、楽しみにしたいと思っています。今後とも、皆様方のご指導をよろしくお願い致します。